

一般社団法人日本民俗建築学会会長挨拶

杉本尚次

一般社団法人日本民俗建築学会は、石原憲治(以下敬称略)の主導によって1950年に創設された。1932年に発足した民家研究会の今和次郎、柳田國男、竹内芳太郎、蔵田周忠、小倉強、大熊喜邦、藤島亥治郎等諸先学による業績を吸収しつつ、幅広い学際的な民家研究をめざして創設された。従来の日本建築史は社寺建築などが主流で、住文化との結びつきをはじめ、関連する諸分野との交流は不十分であった。

一般社団法人日本民俗建築学会は関連する分野が交流・協力する、いわゆる学際的分野に関わりをもつ学会としてスタートしたといえる。国内・海外のフィールドワークを基礎とする野外科学的性格も本学会の特色だし、民俗建築の保存・再生・活用という、過去・現在・未来を視野にいれ、民俗建築の良さをどのように継承し現代に生かすかなどにも注目している。

本学会の各分野の枠をこえた幅広い自由な学際的雰囲気は得がたい特色であり、これを継承・発展しつつあるといえよう。